

言論責任保証評価書	
精緻な作業を可能にする高精細裸眼立体ディスプレイの研究(平成25~27年度)	
予算適正執行の評価	50点(50点満点)
<p>(コメント)</p> <p>予算の研究成果に対する寄与を判断することは、本研究に限らず、極めて困難である。例えば、物品費のすべてが余さず当該研究遂行に必要な不可欠であったかどうかは殆ど判断のしようがない。そのため、予算が適正に執行されているかどうかに関しては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画時に合理的な予算計画が立案されていること。 2. 研究計画時に目標とした研究成果が挙げられていること。 3. 詳細な収支報告書が提出されていること。 <p>の3点から判断するしかない。</p> <p>本研究については、上述の3点とも満たしており、予算は適正に執行されたとの判断が妥当である。</p> <p>もし可能であれば、今後は予算・研究活動・決算の対応が示されることが望ましい。</p>	
研究実効性の評価	50点(50点満点)
<p>(コメント)</p> <p>本研究は、平成25年度から3年間で観察視点を選ばず観賞できるハイビジョンクラスの高解像度裸眼立体ディスプレイの実現を目指すものである。この問題に対し、時分割指向性バックライトに基づくフルハイビジョン裸眼立体ディスプレイを開発し、肝臓手術シミュレーションへの応用でその有効性を評価・確認した。この有効性の評価・確認は医大生によるアンケート評価に基づいており、十分信頼に足るものである。</p> <p>本研究によって開発されたシステムは、今後、医療分野をはじめとした多くの分野で活用されると思われ、当初の目的を十分に達成したと認められる。</p> <p>ただし、本研究は複数の研究者による共同研究であり、掛谷英紀氏担当分の成果の良否が、他の分担者の成果に左右されないかどうか若干の懸念を感じる。</p>	